

VII 学校研究

1. 研究主題

主体的・対話的に学び、目標達成する子の育成

～数学的な見方・考え方を働かせながら深め合う算数科の授業を通して～

2. 主題設定の理由

昨年度は、研究主題を「子どもが主体的に学び、目標達成する算数科の授業」、副題を「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」とし、個別最適な学びと協働的な学びを往還させながら子どもが目標達成し、力をつける授業改善をめざし、研究を進めてきた。そのために、個に応じた学習材や学習活動を工夫したり、教師の見取りと適切な働きかけを充実させたりして、子どもが主体的に考え続け、数学的な見方や考え方を働かせながら問題を解決していく姿を追求してきた。また、図・式・言葉を関連付けて説明する指導や学びの自覚化につながるふり返りの充実を図ることで、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させながら学び進められるようにしてきた。

研究の成果としては、

【教師】

- 昨年度から継続して取り組んできた単元計画表を一部改善して作成し、活用したことにより、単元全体と1時間ごとのねらいをこれまで以上に明確にした授業づくりと指導につなげることができた。
- 数学的な見方や考え方を働かせながら学びを個に返し、ねらいにせまるために、子ども同士をつなげようとする教師の声かけや意識の高まりが見られるようになり、授業の中で、意図的な発問や問い返しを意識して行えるようになった。

【児童】

- 問題の数字を変えてさらに問題を解いたり、身の回りの生活と結びつけて考えたりする姿、話し合う相手や解く問題を自分で判断・選択し自分の学習を進める姿、図を指し示し、算数用語を使って友達に考えを説明しようとする姿などが増え、マイスタ学習に意欲的に取り組む児童の姿が多く見られるようになった。
 - 単元で習得させたい数学的な見方・考え方をつらぬきポイントと呼び、それらを子どもと教師が共有しながら授業を進めてきたことで、授業の中でも単元つらぬきポイントを意識して問題を解こうとする児童の姿が見られるようになった。
- その一方で、
- △友達とも活発に意見を交流し、マイスタ学習に意欲的な姿が見られるが、自分たちで考えを練り上げ、学びを深めていける力は弱く、交流したことで分かったつもりになり、自分で問題を解くとなると難しい児童の姿が見られる。
 - △題意を正しく読み取り、数学的根拠をもとに自分の考えを説明する力、また、学んだ知識・技能を活用したより深い理解（思考・判断・表現）において、課題が残る。
 - △終末のふり返りの時間を十分に確保することと、児童のふり返りを広めることがなかなかできない。などの課題が明らかになった。

そこで、今年度も主体的・対話的で深い学びの実現に向け、個別最適な学びと協働的な学びを往還させ、マイスタ学習を通して子どもに委ねる時間を増やし、数学的な見方・考え方の系統的な指導や教師の適切な働きかけ等にも磨きをかけていくことで、それらを働かせながら、資質・能力を確実につけられる授業改善及び授業力のさらなる向上に努めていきたい。そして、一人ひとりの子どもが主体的・対話的に学び、目標達成する姿を目指していきたいと考える。